えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報　第162号	２０１５年1月２３日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠

１．年頭のあいさつ（　会長　今井　和男　）

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族おそろいで新春をお迎えされたことと、心からお喜び申し上げます。昨年は、皆様方のご支援・ご協力により、諸活動は立派に実施できました。誠にありがとうございます。

さて、昨年の活動を振り返ってみますと、

〇維持活動を中心に諸設備の補修（外来種の駆除、水路の補修、看板等の立替）

〇学童を含めた、田植えから稲刈り、収穫祭の実施（田植後の除草作業、稲穂のイナゴの駆除、ハゼ掛け等）

〇親子自然観察隊の活動の拡大（会員との合同学習会、事業部の新設、「里山の暮らし」の体験）

〇他協力団体との連携（山口県環境パートナーシップ広域会議との交流、宇部環境コミニティー主催出張サロンとの交流）

等々に積極的に取り組みが出来ました。

昨年は雨が多く、気温も低下し、気候の変動が大きく、特に、田植後の稲穂に「イナゴ」の発生が多く、これらの駆除には大変な苦労がありました。また「里山の暮らし」の学習体験では、昔の小道具の「千歯、足踏脱穀機、台唐、石臼等」を使用した体験は大変に好評でありました。

収穫祭には、久保田市長をはじめ、多数の来賓各位のご出席を賜わり、盛大に祭りを挙行出来ました。なかでも、「特別参加」の山口大学工学部の留学生１０名（インドネシア・マレーシア・アメリカ・韓国）の石臼を使用した餅つきは、大変に有意義でありました。

終りに「里山ビオトープ二俣瀬」の創造に努めてまいりますので、皆様方のご支援・ご協力をお願いするとともに、皆様方のご健勝を祈念し、年頭のあいさつといたします。

２．活動報告（　事務局　記）

―１月１０日（土）平成２７年度活動計画の初集会を行いました。２２名の参加でした。

１）２６年度３月までの残務活動は水車修理・田んぼの粗耕・蓮田の再植工事とエコアップで了解を得ました。

２）役員改選について４月総会時立候補者がいない場合の推薦投票人選を考慮しておくことになりました。

３）議事録

①エコアップ・雑草管理は今以上労力が必要でたくさんの参加を呼びかける事
前田会員の要望「１２月に一回エコアップの日を設けてほしい」

②２７年度は特に親子自然観察隊の活動から稲作体験はつくる会主導に戻すことになりました。

③維持管理活動を増やすことで親子自然観察隊の日程を再度検討（つくる会の行事と

観察隊の活動を分け午後を主に行う案や維持管理の一部を助成する案）を再度行う事になりました。

④稲作体験で田植え６月６日、稲刈り１０月１０日、収穫祭は１２月５日、８月２日（第一日曜日）は維持管理活動、８日（第二土曜日）は観察隊の活動日に変更されています。

⑤昭和山遊ロードの整備を計画に入れる

⑥２７年度はシイタケ栽培の活動計画を行う（１２月末には原木切り倒し）

⑦総会は4月4日（第一土曜日）26年度会計監査は3月30日（月）10時より決定

―１月１３日（火）田んぼの土壌活力アップの為、宇部乗馬クラブより厩肥を軽四輪車３台分を頂き運搬いたしました。渡邉・吉富・原田の３名と軽トラ３台応援を頂きました。

―１月１７日（土）参加者は１３名でした。

①草原川のエコアップ兼維持活動（浚渫と除草）

②水車の修復（水漏れ個所のコーキング・注水木枠タワーの補強工事済その他周囲の安全柵取替中

③柵や蓮田の補修用竹の伐採

午後　ため池の散策橋の架台の補強と水車周辺の安全柵の仕上げを行いました。

―１月２０日（火）臨時の作業として、厩肥の散布を１０時より吉富・原谷・前田・金子各会員と事務局５名にて行ないました。その後トラクターで粗耕しを行いました。

３．今後の予定（　事務局　記）

◎見学者

◎行　事

―２月１日（日）維持活動（田んぼの厩肥散布・蓮田の再生工事・架台石の運搬）

―２月２１日（土）維持活動（エコアップ、修復作業）

※２月度はエコアップを休止して維持修復活動のみとします

４．来訪者の声

今月はありません。

５．会員の声【今年の目標】　（河崎　運　記）

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会に入会して何年経ったかはよく覚えていませんが、田植えを２回見学したのと総会に一度出席した以外は専ら収穫祭でお餅を呼ばれるだけでした。

いつもお世話になり、ありがとうございます。今回、会員の声の投稿依頼を受け、自分がやってみたい事とやるべき事の２つを考えてみました。

まず、やってみたい事は、自然観察隊として、生物や植物の生息状況を把握しておきたいと思っています。大人向けのコースが難しければ、生物多様性応援団として、生物群集の生息空間をつくる作業に加わってみたいです。

次にやるべき事ですが、組織の継続・発展に向けたお手伝いが求められている役割かと思っています。

ビオトープのエリア保全に係る役所への陳情事が今のところの役割ですが、今後は自然観察や稲作文化を始めとした農業体験全般の指導者確保に向けた支援が組織の存続に一番大切なことだと思っております。

今年もよろしくお願いいたします。

６．ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」　（　管　哲郎　記）

(25) ルリボシヤンマ　*Aeshna juneca juncea*

ヤンマ科　Aeshnidae ＜ルリボシヤンマ属＞　*Aeshna* Fabricius

体色は黒地に黄緑色や薄い空色（るり色）をし、複眼は大きく中～大型のヤンマです。日本には本種のほかにオオルリボシヤンマ、マダラヤンマ、イイジマルリボシヤンマの４種類がいますが、山口県には本種とオオルリボシヤンマの２種のみが確認されています。後の２種は北海道と東北地方や長野県、石川県などとなっています。

生息場所は標高の高い植生豊かな池といわれていますが、山口県では標高の低い丘陵地のため池でもヤゴが生息し、羽化している姿が見られます。

国内では北海道、本州、四国（徳島県）に分布し、利尻島、佐渡島、対馬などの離島にも生息しています。寒冷地を好むようで東北日本では普通に見られますが、西南日本では産地が限定されます。県内では山口市徳地、萩市川上、佐々並、宇部市奥万倉、西吉部、下関市豊田町（華山）などで目撃、採集されています。８月～１０月ごろに見られます。

本種は比較的小さく浅いため池や湿地を好むようです。雄は縄張りとする狭い池や湿地の上空を一定の時間１ｍ～２ｍほどの高さでぐるぐる回って縄張り飛翔します。時には山中の広場や車の通らない道路の上でも飛翔していることもあり、採集は割と簡単です。筆者は標本を作りませんし、希少種でもありますし、簡単に捕獲できますのでかわいそうな気もして、網は出さずもっぱら写真撮影を心掛けています。撮影はちょっと難しいですが慣れると何とか撮れるようになります。腕に自信のある方はぜひ挑戦されてはいかがでしょう！

（上）♂の飛翔　　（下）♀の休止　　ルリボシヤンマの羽化状況

７．会よりの連絡事項

１）２７年度の初春を迎え申し上げます。ビオトープ発足以来１５年目です。事務局も１２年間何とかやってきましたが、個人的都合で事務局の継続が満足に出来なくなってきました。私自身は何とか一会員として活動出来ると思いますが、事務局としての活動は大変ご迷惑をおかけする事態が多々あると判断し事務局を辞退したく、初集会で申し込みをいたしました。

春の総会では役員人事も含め行われますので了承と良案を考えて頂きたく申し上げます。

８．編集後記

２０１５年初集会、思えば数年前は２階の広間の方で人数も多かった気がします。以前から出ている役員の交代、もう引き延ばせなくなっているのでしょうか。その他の活動も少しずつ困難になっています。ビオトープのシンボルの水車と共にみんな１年歳をとったのですね。だんだんと重い１年１年になっていく様です。水車もグリスアップし、補強されながら頑張って廻ってくれています。負けずに頑張っていきたいと思います。

（　松本　フデ子　記　）